

2026年JAF四国ジムカーナ選手権第3戦

2026年JMRC全国オールスター選抜ジムカーナ第3戦

## POTENZAカップ'26スピードマスター杯S.M.Cスラロームアタック

主催：スピリッツ・モータースポーツクラブ (TEAM S.M.C)

開催日：2026年5月24日

場所：モーターランドたちかわ

レポート：JMRC四国 広報担当

**R2西尾吏巧選手、BSC1田中康一が開幕3連勝！**

**PN徳永秀典選手は第3戦にして今季初優勝！**

R1クラスは、開幕戦優勝の三井康司選手が第1ヒートをリード。ウイニングランとなった第2ヒートでもタイムアップを果たし、2位以下を引き離して2勝目をマークした。R2クラスの第1ヒートをリードしたのは道下貴広選手。ラスト前ゼッケンの道下選手は、第2ヒートでも更にタイムアップし、暫定トップに立ちラストゼッケンで開幕から連勝中の西尾吏巧選手のゴールを待つ展開に。第1ヒートは出遅れた西尾選手だったが、第2ヒートで大幅なタイムアップを果たし、見事、開幕3連勝とした。道下選手は悔しい2位となった。R3クラスの第1ヒートをリードしたのは、開幕戦優勝の土居明生選手。第2ヒートに入ると、まず、山崎聡一選手がトップタイムを更新。ラスト前ゼッケンの土居選手がトップタイムを奪い返して、残すは前戦優勝のラストゼッケンの下川和選手。下川選手は、パイロンペナルティの第1ヒートから大幅なタイムアップを果たしたものの土居選手のタイムに届かず。土居選手が優勝、下川選手が2位、山崎選手が3位となった。R4クラスは、開幕戦優勝の竹下俊博選手が第1ヒートをリード。第2ヒートでは、1年振りの復帰となる瀧本恭之選手がトップタイムを更新したもののラストゼッケンの竹下選手がタイムアップを果たし、優勝を決め2勝目を手にしたが、竹下選手は、パイロンペナルティで下位に沈んだ佐藤忍選手に実走タイムで負けていたことを悔しがっていた。BSC1クラスは開幕3連勝を狙う田中康一選手が、第1ヒート、驚異的なトップタイムを記録したもののパイロンペナルティが加算され幻に。第1ヒートをリードしたのは窪田竜三選手。第2ヒートに入ると昨年はPNクラスを走っていた金森峰史選手がトップタイムを更新。一方、窪田竜三選手は残念ながらタイムダウン。そして迎えたラストゼッケンの田中康一選手はミスなく走り切り逆転で3連勝を決め、金森選手が2位、窪田選手が3位となった。20代の若手、星川栞人選手が、ベテラン勢を抑えて開幕2連勝を飾っている注目のPNクラス。第1ヒートは、トップタイムの徳永秀典選手を天満清選手、そして星川選手が僅差で追う展開に。第2ヒートに入ると、まず、天満選手がトップタイムを更新。そして、そのタイムを徳永選手が更新し、ラストゼッケンの星川選手へ。星川選手は僅かなタイムアップに止まり徳永選手、天満選手のタイムに届かず今回は3位となった。優勝した徳永選手は今シーズン初優勝を喜ぶ一方で、今シーズンの星川選手の成長を讃えていた。また、3連勝を逃した星川選手は、「みかわ（次戦）では勝ちたい」と力強く抱負を語ってくれた。次戦以降もPNクラスからは目が離せない。



R1クラス優勝の三井康司選手



R1クラス2位の福田和秀選手



R 1 クラス 3 位の堤耕平選手



R 2 クラス優勝の西尾吏巧選手



R 2 クラス 2 位の道下貴広選手



R 2 クラス 3 位のジュウガワ貴行選手



R 3 クラス優勝の土居明生選手



R 3 クラス 2 位の下川和大選手



R 3 クラス 3 位の山崎聡一選手



R 4 クラス優勝の竹下俊博選手



R 4 クラス 2 位の瀧本恭之選手



R 4 クラス 3 位の三好範学選手



B S C 1 クラス優勝の田中康一選手



B S C 1 クラス 2 位の金森峰史選手



B S C 1 クラス 3 位の窪田竜三選手



P N クラス優勝の徳永秀典選手



P N クラス 2 位の天満清選手



P N クラス 3 位の星川菜人選手



R 1 クラス入賞者



R 2 クラス入賞者



R 3 クラス入賞者



R 4 クラス入賞者



BSC 1 クラス入賞者



PN クラス入賞者



クローズド（選手権外）クラス入賞者



四国外から参加の選手